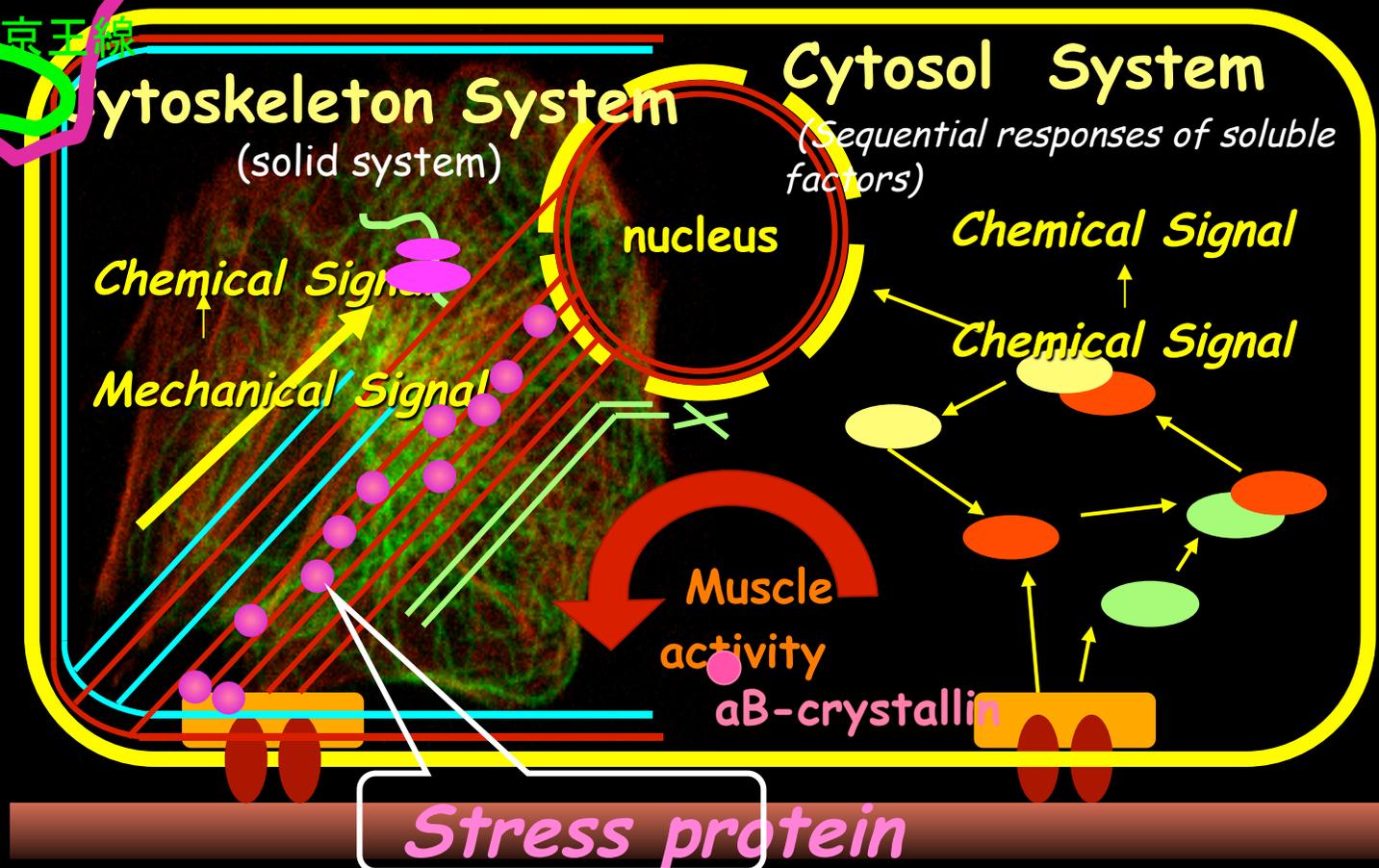
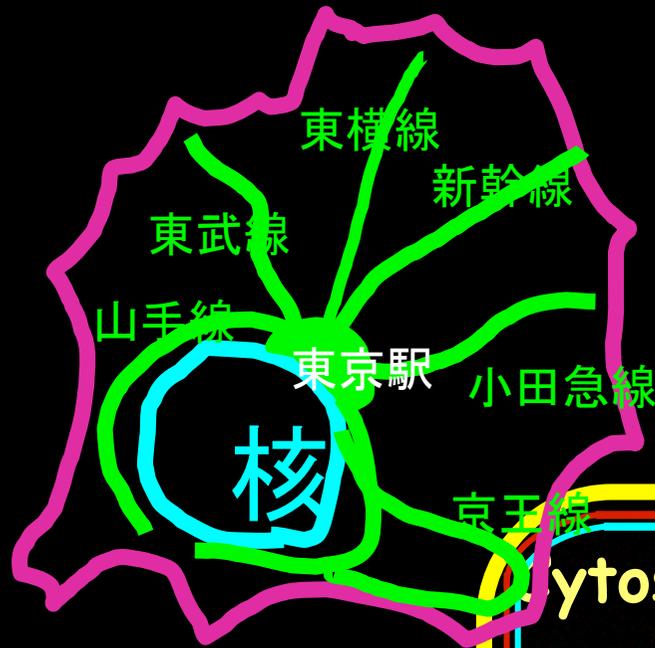
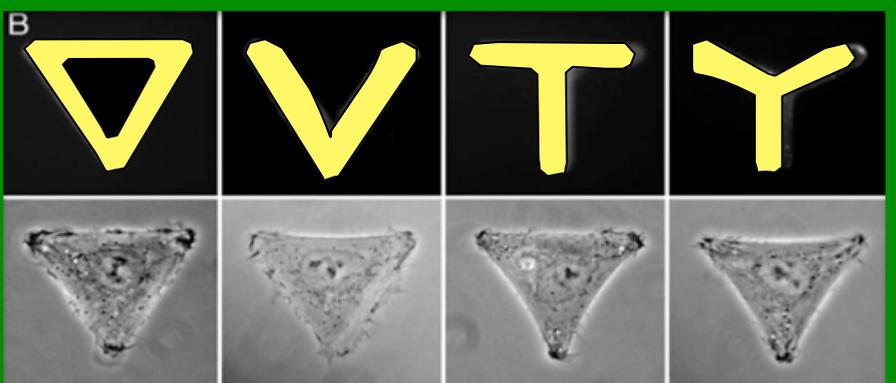
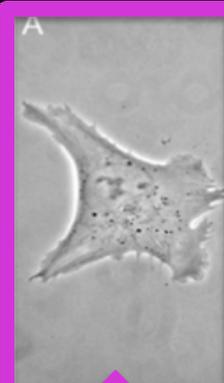


# 構造的に刺激を伝える・ケミカルに伝える2つの伝達系:

通常細胞内の反応は溶液中の反応として考えられていますが、細胞骨格は、タンパク質による構造をつくり構造依存的に反応を進めます。細胞骨格は、まるで都市のような細胞の交通路です。運動はこの系をダイレクトに活性化すると思われます。 $\alpha$ B-クリスタリンはこの細胞骨格のお世話をするストレスタンパク質です。張力のかかる部位に局在していることがわかります



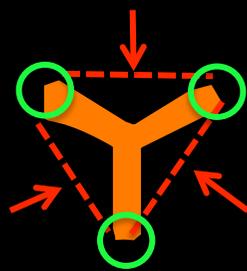
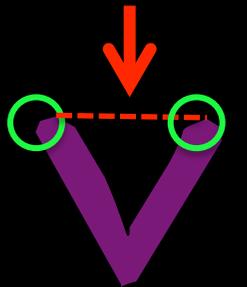
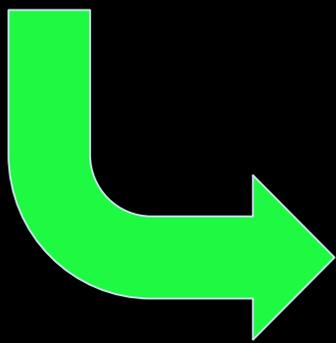


# 細胞のかたちと接着面

## Micropatterned surfaces for studying cell structure and function

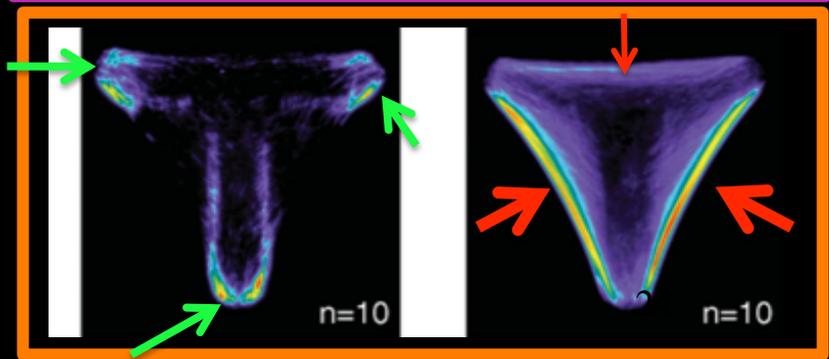
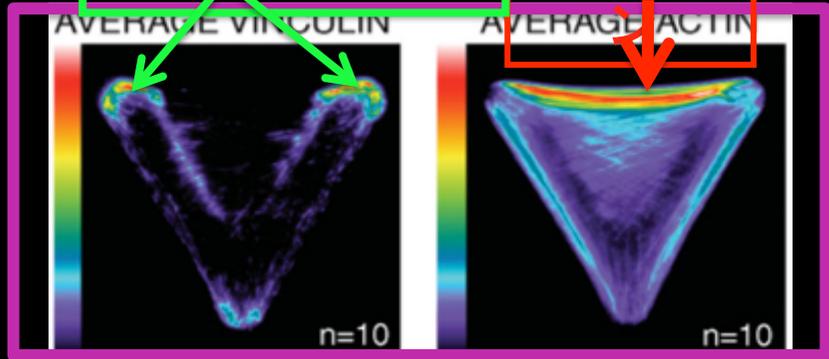
型がなければ不定形

接着面を決める「カタ」の上の細胞は、全部三角形になる (Manuel They et al. 2002)

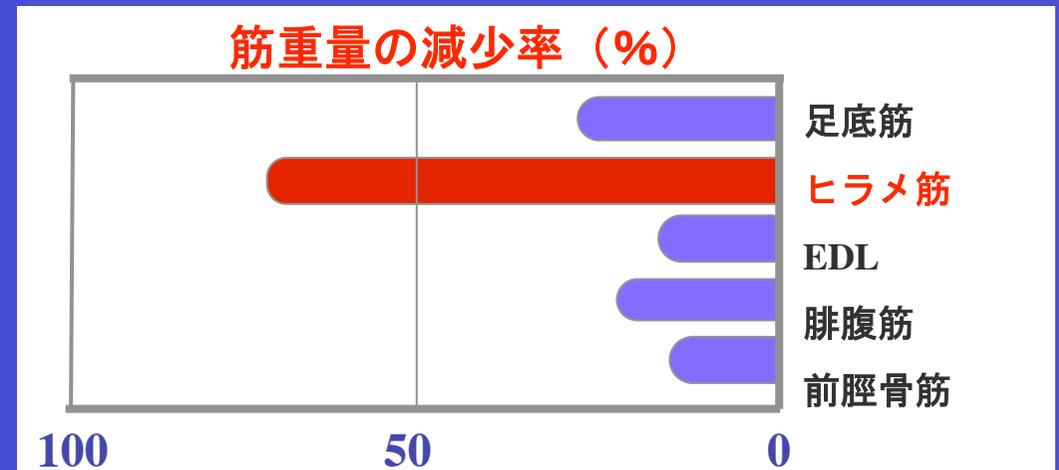
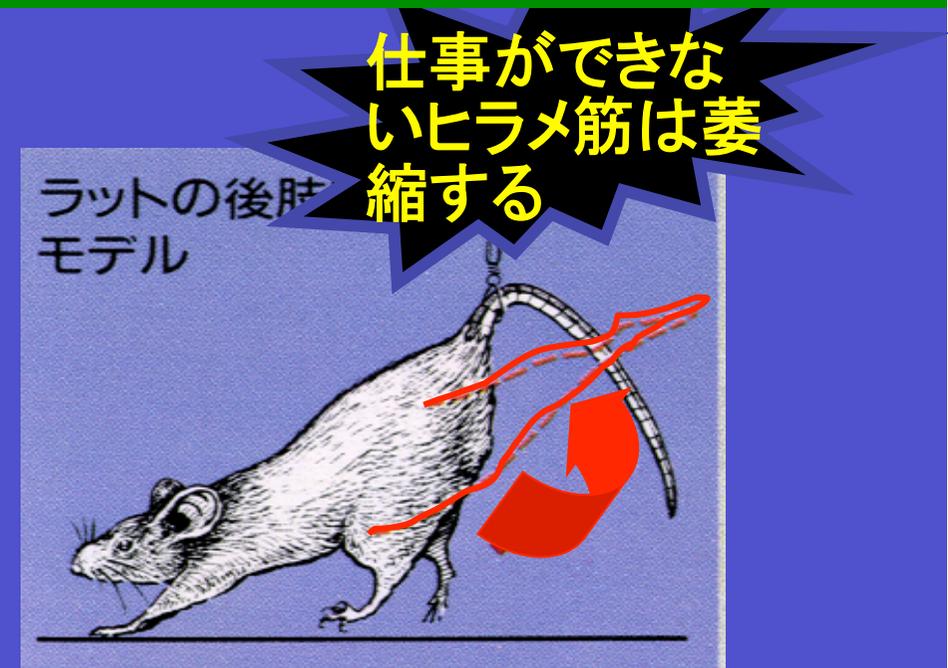
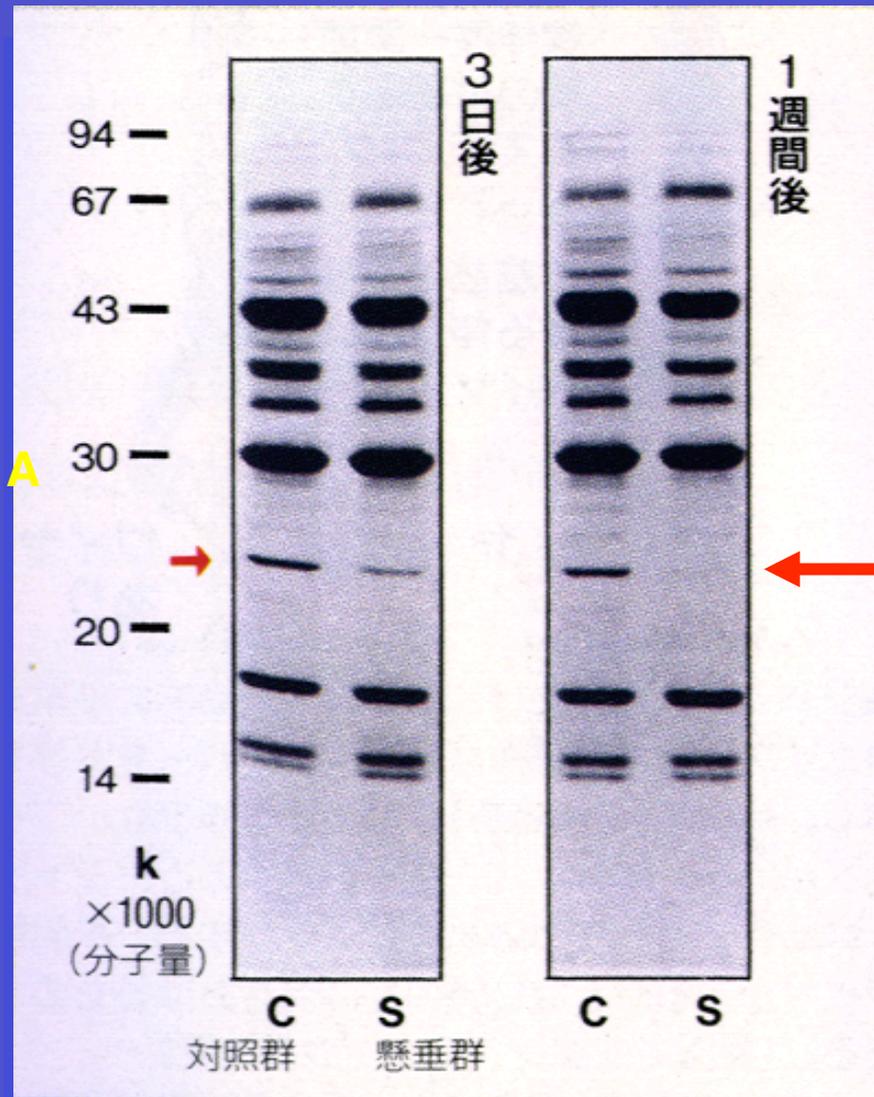


ピンキュリン

アクチ



# 重力場での活動を支えるストレスタンパク質・ $\alpha$ B-crystallinの発見



ラットの筋萎縮モデル-後肢を床に着かないようにすると、抗重力筋のヒラメ筋は仕事ができず、1週間で半分になる。矢印は、

ストレスタンパク質・ $\alpha$ B-crystallin